

# 出羽商工会景況調査報告

## 〔調査要領〕

調査対象 : 出羽商工会地域の企業 100社 (製造業 24、建設業 24、小売業 26、サービス業 26)  
 調査時点 : 令和3年6月・9月  
 調査方法 : 企業へ調査表記入依頼及びヒアリング

※D. Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で以下により算出しており、将来の景気方向性を値で表している。

D. I. = 【各項目の増加 (上昇・好転) 企業割合 (%)】 - 【各項目の減少 (低下・悪化) 企業割合 (%)】

## 【全体】

- 第1期 (4-6月) 及び第2期 (7-9月) のDIは総じて回復傾向にある。ワクチン接種や緊急事態宣言の解除をきっかけに持ち直しの動きがみられ、前年同月期と比較し第1期 (4-6月) プラス28.5ポイント、第2期 (7-9月) プラス11.0ポイント増加しており景況感は上昇している。

## 【製造業】

- 令和2年度は最も下落幅が大きい業種であったが、回復傾向がみられ直近調査である第2期 (7-9月) はプラス53.1ポイント増加している。
- 一方で、大手自動車メーカーの減産による影響や世界的な半導体不足による製造量減少など今後の受注量への影響が懸念されている。

## 【建設業】

- 建設業は2020年第4期 (1-3月) の調査から現在調査まで下落傾向にある。下落幅は小さいものの、調査対象業種の中で唯一下落している業種である。
- ウッドショックによる影響から材料仕入単価が上昇傾向にある。回答企業の内約7割の企業が上昇したと回答しており影響がみられる。

## 【サービス業】

- ワクチン接種により外出や外食が少しずつ増加したことで需要が回復しDIは上昇している。
- 一方でこれからの第4期 (10-12月) の見通しは「減少」と回答企業が半数以上おり、市場回復に慎重な姿勢が伺える。

## 【小売業】

- 新型コロナウイルス感染症の減収幅がやや縮小傾向しつつある。巣ごもり需要による後押しもあるが、ECや通信販売の台頭により購入単価減少、利用頻度減少などが懸念されている。

6月調査 前期 (1月 - 3月) と比べて今期 (4月 - 6月) の業況は						9月調査 前期 (4月 - 6月) と比べて今期 (7月 - 9月) の業況は					
区分	製造業	建設業	小売業	サービス	全体	区分	製造業	建設業	小売業	サービス	全体
好転A	26.1	0.0	4.8	3.8	7.8	好転A	25.0	4.3	20.0	20.0	18.5
不変B	26.1	78.9	42.9	61.5	52.2	不変B	40.0	65.2	25.0	48.0	43.5
悪化C	47.8	21.1	52.4	34.6	40.0	悪化C	35.0	30.4	55.0	32.0	38.0
DI (A-C)	-21.7	-21.1	-47.6	-30.8	-32.2	DI (A-C)	-10.0	-26.1	-35.0	-12.0	-19.5

## 景況判断「DI」全業種及び業種ごとの推移

